# 真性包茎の治療で泌尿器科に行ったら、美人女医にモニターになって欲しいと言われ写真を撮られた

真性包茎の治療を決意して泌尿器科を訪れたのは、午前中の比較的空いている時間帯だった。待合室で名前を呼ばれるまで、いくらか落ち着かない気持ちで緊張しながら雑誌をめくっていたが、ようやく「次の方」と案内され、診察室の扉を開ける。

普段このクリニックを担当しているのは、白髪交じりの温和なおじいさん先生だ。何度か通っていて、落ち着いた雰囲気でとても信頼

できる先生だ。ところが今日、椅子に座っていたのは全く違う人物だった。

白衣を着た、まだ20代後半くらいの若い女性。長い黒髪を緩くまとめ、整った顔立ちに薄いメイク。知的で涼しげな印象だ。美人だ、と一瞬で思った。

「今日は父が学会の用事で不在でして。娘の私が診ますね」と、彼女は穏やかに微笑んだ。「〇〇さんですね。真性包茎の相談でいらっしゃったと」

普段のおじいさんの声とは違う、柔らかくて少し高い声が響く。思わず体が強張った。女医さんにちんちんを診られるとは想定していなかった。恥ずかしさが一気に込み上げてくる。

「……はい」と短く答えると、彼女はカルテを確認しながら続けた。

「リラックスしてくださいね」

その言葉に少しだけ肩の力が抜けた。それでも、心臓の鼓動が早くなるのを感じる。

「では、下半身を出していただいて。仰向けになってください」